

研究授業「海外から見た日本、改めて知る香川県」実施報告

佐々木 千嘉*

A Report on the Implementation of an Open Research Class
The Rediscovery of Japan from an International Perspective:
Rethinking Kagawa Prefecture

SASAKI Chihiro

要約

本稿は、高松短期大学ビジネスデザイン学科における 2025 年度前期研究授業「海外から見た日本、改めて知る香川県」の実施報告である。本研究授業において、発表者である筆者は、受講者に対して、職業人として必要な身近な教養や、就職後の生活を見据えたキャリアデザインについて考察する重要性を説いた。また、海外と日本の両方で教育研究活動を展開してきた自らの経験を述べ、本研究授業が「ローカル」と「グローバル」の双方向的視点から、香川県の魅力や独自性を再発見するための契機となることを目指した。

キーワード：ロンドン、留学、美術史、讃岐漆芸、香川県

Abstract

This paper reports on the outline of an open research class The Rediscovery of Japan from an International Perspective: Rethinking Kagawa Prefecture, conducted by the Department of Business Design at Takamatsu Junior College in the first semester of 2025. This open research class focused on developing students' general academic knowledge and analytical skills for planning professional careers after their graduation. The speaker's academic experiences in Japan and overseas provided both local and global perspectives. This opportunity was designed to reconsider a wide range of issues to explore the uniqueness and originalities of Kagawa prefecture.

Keywords : London, study abroad, history of art, Sanuki lacquer art, Kagawa prefecture

受理年月日 2025 年 11 月 27 日 *高松短期大学ビジネスデザイン学科講師

1. 研究授業及び検討会の実施

研究授業及び検討会は以下の通り実施された。

<研究授業>

日時：2025年6月27日（金）3校時

場所：本館 201 講義室

科目名：応用演習 I

受講対象：高松短期大学ビジネスデザイン学科 2 年生

当日の受講者は、受講登録者 40 名に対し、33 名の出席であった。

参加教員人数：7 名

<検討会>

日時：2025年7月10日（木）教授会終了後

場所：小会議室

参加教員人数：8 名（発表者含む）

2. 授業の概要

<応用演習 I >

本研究授業は、ビジネスデザイン学科 2 年生対象の必修科目「応用演習 I」で実施された。応用演習 I¹⁾は、職業人としての教養を身に付けるための授業である。就職活動から就職後の生活を見据え、自身のキャリアデザインを思考する機会として、総合ビジネスコース、医療事務コース、グローバルビジネスコース、ヒューマン IT コースの各コースの就職先として想定される職場から外部講師や卒業生による講話を通して、学生自身の職業観を深めることを目的としている。また、スーツの着こなしや労働三法、男女共同参画社会なども取り上げ、社会生活を送るための豊かな人間性や、社会人としての幅広い教養及び国際感覚について学ぶ。本授業が定める学修の到達目標²⁾は以下のとおりである。

1. 情報倫理、働き方、職業人としてのマナーなどを学ぶとともに学外講師の講話を聞くことによって、幅広い教養や知識、技能を身に付けることができる。
2. 体験を通して、問題発見力、情報収集・分析・整理能力、問題解決能力を身に付けることができる。
3. 基本的なコミュニケーション能力を高めることができる。

¹⁾ 高松短期大学ビジネスデザイン学科 専門科目 共通科目 必修科目「応用演習 I」
シラバス参照

<https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/07/business-design.pdf#page=63>（情報取得年月日：2025年11月23日）。

²⁾ 前掲註 1)

<研究授業>

本研究授業は、第11回「海外から見た日本、改めて知る香川県」として実施し、発表者である筆者の6年間に及ぶロンドンでの留学経験を中心に授業内容が構成された。受講者が幅広い視野を持って今後の人生を歩んでいけるように、残りの学生生活やその後の社会に出てからの生活において、好奇心や冒険心、情熱と行動力、柔軟な思考力を持って、多くの出会いや経験、自分と向き合う時間をいかに将来に活かしていくのか、各々のキャリアデザインについて意識することの意義を述べた。また、海外から見た日本の文化、特に香川県を代表する芸術分野のひとつである讃岐漆芸についても取り上げ、地域文化を学ぶ意義を伝えるとともに、様々な観点から香川県の魅力や独自性を再発見していく重要性を説いた。

香川県さぬき市出身で漆芸作家の家庭に生まれた発表者は、高校卒業後にイギリスに留学し、ロンドン大学東洋アフリカ研究学院(SOAS)の学士課程及び修士課程において、日本美術史を専攻した。135以上³⁾の国と地域から留学生が集まり、正規課程の学生約43%⁴⁾が留学生という国際色豊かな教育機関において、アジア・アフリカの視覚芸術、建築、物質文化を学ぶことは、異文化から情報や知識を獲得し、多角的な視点と多様な価値観を持って、各々が定めた課題や研究に展開させていく点に大きな特徴があった。6年間の留学経験を通して発表者は、海外から日本を客観的に見ることで、日本の工芸、特に漆芸の持つ高い技術と豊かな芸術性による価値と可能性を再発見し、その魅力を広く発信する重要性と手法について意識するようになった。

帰国後は、金沢美術工芸大学大学院博士後期課程に進み、明治時代の香川県において展開された近代美術教育から波及した作家の登場と個性の追求、そして第2次世界大戦後の教育・芸術・産業領域の体系化について研究を続け、2020年3月に博士号(博士(芸術))を取得した。全国有数の漆器産地の一つとして名高い香川県は、20世紀後半に日本を代表する芸術家や巨匠たちがその地に集い、同地の漆芸家たちとの親交を通して、一時代を築き上げるに至ったが、その一方で、多面的考察をもとにした近代における讃岐漆芸の学術的研究が不十分であると言わざるを得ない状態が長らく続いてきた側面が存在している。発表者は、現在の讃岐漆芸の在り方を単なる郷土史の枠組みではなく、より広く美術史的な観点と方法に重きを置く研究調査を行う必要性を感じながら、今日まで研究活動を進めている。

博士号取得後は、金沢美術工芸大学で助手を務めた他、同大学及び金城大学短期大学部、富山県立大学で非常勤講師として勤務し、「日本美術史」や「西洋美術史」、「工芸史」などの講義を担当した。さらに金沢美術工芸大学においては世界を舞台に活躍する芸術家、デザイナー、研究者育成を目指した国際交流活動として、海外作家講演会の通訳や翻訳なども経験した。こうした活動を通して、次第に自身が行ってきた讃岐漆芸史の研究成果や大学

³⁾ SOAS University of London Official website 参照

<https://www.soas.ac.uk/international> (情報取得年月日: 2025年11月23日)

⁴⁾ QS World University Rankings 2026: Top global universities 参照

<https://www.topuniversities.com/universities/soas-university-london> (情報取得年月日: 2025年11月23日)

教員として培ってきた教育経験を、積極的に地域社会に還元していきたいと考えようになった。それと同時に地元香川県に活動拠点を移すことを検討し始め、その中で高松大学・高松短期大学が掲げる教育理念「対話」「理論」「実践」を知った。この理念は自身の求めている理想と合致していたと同時に、より地域に密着した新しい教育研究活動を展開できる環境であると確信した。

2025年4月から高松短期大学ビジネスデザイン学科講師として教鞭を執ることになり、2025年現在の担当授業である「香川学」「地域文化論」や「研究室活動」では、学生たちに地域文化を学ぶ意義を各々が意識してもらうことに努めながら、社会人として必要な教養を身に付けてほしいと考えている。県内の身近な地域には、歴史や文化に係る場所や建物、芸術作品などが数多く存在しているため、それらを学生各自が多角的な視点で考え、様々な分野に応用できる多面的な分析能力の向上を目指した教育指導を目標としている。

本研究授業において発表者は、自身のこれまでの経験や教育研究活動の成果に関する講話を通して、受講者各々が自分なりの生き方やキャリアビジョンと呼ばれる将来像を明確化する意義を述べた。主体的なキャリア形成の実現を目指す契機となることを期待し、さらには本学の今後の教育指導についても、学修から得た知識や技能を地域、社会、そして世界に還元していけるような、幅広い視野を持つ学生たちを育てていきたいと考えている。

3. 参加記録及び検討会における意見

本研究授業における参加記録及び検討会で議論された内容について、「授業を積極的に評価できる点」を表1、「授業の改善にかかわる点」を表2、「授業全体の感想」を表3に記載する。評価できる点として、発表者の経歴から発展させて、受講者各々のキャリアデザインについて考えさせた点や、受講者が興味を持って受講できたという意見が多くあった。また、改善点として、受講者の集中力を持続させるためにワークシートを使用し、①旅行、留学、研修等で海外に行ってみたいか、②海外の映画や音楽、スポーツに興味があるか、③自宅に漆器があるか、また漆についてのイメージは何か、④香川県の良い点は何か、を記述させたが、その意見を聞くことができなかった。受講者に発表を促したり、アンケート作成・管理ソフトウェア等を効率的に活用するなど今後の授業に向けて検討したい。

表1：授業を積極的に評価できる点

① 教育内容

・「海外から見た日本、改めて知る香川県」というテーマでの話を通して、海外から見た日本の文化と香川の漆芸についての知識を深めることができる内容であった。また、目的を持って努力することの大切さや多様な価値観の人々と交流することの喜びが伝わる内容であった。

・ワークシートの記入により学生の集中力を持続させた。

・発表者の留学経験を話されたことは、学生にとって良い刺激になったと思う。

② 授業方法

- ・発表者の家庭での芸術との関わりやロンドンへの留学の経験を中心に話が構成されており、興味を持って話に入っていた。
 - ・ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）に入学するための英語の勉強、様々な国からの留学生たちとの交流、コミュニケーションの取り方など、発表者が伝えたいこととして挙げられた「好奇心、冒険心、情熱と行動力、柔軟な思考」が盛り込まれた話の内容だった。
 - ・写真を数多く紹介されており、話の内容がより分かりやすく伝わってきた。
 - ・香川の漆器については、蒔醬、彫漆、存清の3つの技法が図を使って詳しく紹介されており、香川県人としての教養を深めることができる内容だった。
- ③ その他
- ・発表者の話し方は、分かりやすく、内容が伝わりやすいと感じた。ゆっくり、はっきり、丁寧に話をされるので、落ち着いて話の内容に入っていくことができた。
 - ・英語と米語の違いについての分かりやすい説明もあった。

表2：授業の改善にかかわる点

- ① 教育内容
- ・ワークシートを書かせた後のフィードバックがあれば良かった。例えば、巡回して目に留まった内容を披露したり、発表者自身の意見を学生に伝えたりするなど。
 - ・授業の形態上、応用演習Ⅰの授業方針に従ったため、学生の意見があまり聞けなかった。
 - ・「キャリア」、「英語」、「専門分野」が入り混じる部分があった。
 - ・日本とイギリスの「制度」の違いについての解説を最小限度にして、学生へ伝えるべきことに重点を置くこと。
- ② 授業方法
- ・ワーク時における学生への声かけ
- ③ その他
- ・学生の意見をその場で聞く方法として、例えばワークシートを Google Forms で入力させれば、すぐ意見が確認できる。

表3：授業全体の感想

- ・発表者の経験の一部を聞いて、自分の人生に真剣に向き合って努力をしてきたことが伝わった。海外の大学で学んだ、その勇気と行動力は、発表者の熱情によるものと思う。多くのことに感動した1時間であった。
- ・発表者の海外での経験、日本美術に対する向き合い方、香川の漆芸への思いは、学生たちに「よし、やろう」という気持ちを起こさせてくれるものだと思う。学生たちが、広い視野を持って人生を歩んでいけるよう、発表者の「好奇心、冒険心、情熱、行動力、柔軟な思考力」を様々は場面で伝え続けてほしいと思う。
- ・発表者のキャリアがよく分かった。自分のキャリアを今後の教育活動にぜひ生かしてほ

しい。また、これから留学しようとしている学生はいると思うので、サポートしてあげてほしい。

- ・学生にとって今までと違った「キャリア教育」であったと思う。
- ・発表者の人柄が伝わってくる、とても誠実な授業展開、授業内容だと感じた。

4. おわりに

本研究授業は、受講者が好奇心や冒険心、情熱と行動力、柔軟な思考力を持って、多角的な視点で考えることにより、彼らのキャリアデザインをより豊かなものとしていけることを企図した。将来的に受講者が様々な観点から香川県の魅力や独自性を再発見し、地域の課題や問題解決にリーダーシップを発揮できる人材となることを期待したい。

最後に、研究授業・検討会に参加していただき、貴重なご意見やご指導をいただいたビジネスデザイン学科の先生方に感謝する。

参考文献

高松短期大学ビジネスデザイン学科 専門科目 共通科目 必修科目「応用演習 I」シラバス
<https://www.takamatsu-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/07/business-design.pdf#page=63> (情報取得年月日：2025年11月23日)

SOAS University of London Official website

<https://www.soas.ac.uk/international> (情報取得年月日：2025年11月23日)

QS World University Rankings 2026:Top global universities

<https://www.topuniversities.com/universities/soas-university-london> (情報取得年月日：2025年11月23日)